

## 静岡書店大賞 ～読書推進は官民連携で!～

### 静岡県 静岡県立中央図書館

#### 基本データ

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 所在地    | 静岡県静岡市駿河区谷田<br>53番1号 |
| 職員数    | 46人                  |
| うち司書数  | 18人                  |
| 蔵書数    | 855,779冊             |
| 利用登録者数 | 76,215人              |
| 年間貸出冊数 | 62,755冊              |

#### テーマ・活動のねらい等

##### 【テーマ】連携

##### 【活動のねらい】

- 静岡書店大賞は「読書県しずおか」の構築を目指す静岡県教育委員会の取組に共鳴した初代事務局長が、静岡県の読書推進を目指して県内の新刊書店員有志とともに立ち上げた。
- 新刊書店の多くではレジ横など目立つ場所で受賞作を販売しており、図書館に来館されない方への読書推進の波及効果を期待している。

#### 取組・活動の概要

- 静岡書店大賞は候補作を決めないオープン文学賞で、静岡県内の新刊書店員と図書館員（公立図書館だけでなく大学・専門・小・中・高・特別支援学校の図書室も含む）が投票権を有する。
- 毎年9月に県民読者にお勧めしたい本を投票し、12月の授賞式は受賞作家をお招きし、書店員や出版社の社員だけでなく、図書館員も参加する。
- 民間と行政の垣根を越えた先駆的な賞で、全国の出版社や書店に注目されている。
- 例年、6月に第1回実行委員会を開催し、9月15～30日に投票、版元訪問を経て12月に授賞式を開催する。賞の運営のため年3～4回開催される実行委員会に静岡県立中央図書館の職員が出席し、図書館や公共の立場から意見をを行っている。
- 令和元年は12月3日(火)に授賞式を開催し、小説部門（大賞）、児童書新作部門（大賞から第3位まで）、映像化したい文庫部門（大賞）、児童書名作部門（大賞）の全ての受賞作品の作家が授賞式に出席された。
- 取次の壁を越えた商談会「しぞ～か本の日！大商談会」が地方では初めて静岡で開催されることになった際、全国的に注目されている静岡書店大賞の授賞式と同日に開催することとなった。静岡書店大賞に図書館員も投票している流

れて、図書館員も商談会に参加できる大変珍しい商談会となっており、出版社から直接現在の出版動向やお勧めの本を紹介いただけるよい機会となっている。

- 授賞式以降は、新刊書店では売り場で集中的な販売を行い、図書館では過去受賞作を含めた展示を行っている。



静岡書店大賞を紹介する展示

## 取組・活動の工夫や特徴

- 図書館員が参加しているという色を強く打ち出すため、平成 29 年度から児童書名作部門の投票権は図書館員に限定されるようになった。
- 平成 28、29 年度は、静岡県図書館協会と静岡県立中央図書館が主催する公立図書館職員向けの研修会を授賞式と同日に開催することで、回遊効果により商談会と授賞式の図書館員の参加が増加した。
- また、商談会という慣れない場に参加することに躊躇する図書館員が多いことから、書店員がアattendすることで参加しやすくなるよう配慮している。
- 投票の呼びかけは、従来実行委員会のブログと公立図書館や大学・専門図書館が加盟する静岡県図書館協会のみであった。投票数が伸び悩んでいたことから、平成 29 年度から公私立の学校にもメールにより直接投票を呼びかける手法をとったことにより、投票数は前年比 4 倍と大幅に増加するだけでなく、授賞式への学校司書の参加も増加した。

## 取組・活動の成果や今後の展望

- 児童書名作部門の受賞作を図書館員による選出に変更したことや、図書館員の投票数や授賞式への参加者数の増加により、賞における図書館員の存在感が高まった。
- 静岡市立中央図書館が令和元年度の受賞作を Twitter で投稿したところ、受賞作家から喜びのツイートが掲載されるなどの交流もみられるようになった。
- 富士市立図書館では、図書館員の事前投票により選定した 10 作品に対して利用者が投票する形式の、利用者参加型の文学賞を実施し大変好評だった。
- 今後は、出版社の社員や受賞作家との直接交流が可能な商談会や授賞式等の魅力を伝え参加を促していくとともに、官民連携による読書推進の更なる展開についても探っていきたい。



第 8 回静岡書店大賞 受賞作のポスター